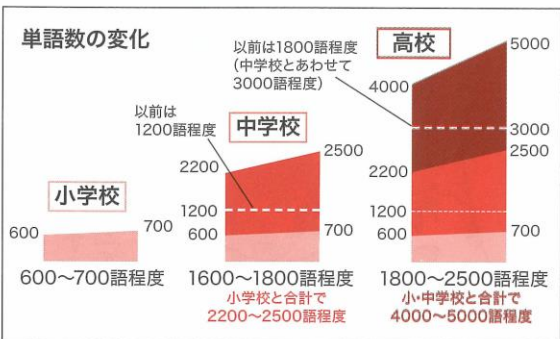


# 英語教育改革により到達目標が押し上げられています。

今回の学習指導要領改訂では高校の学習カリキュラムも見直され、高校卒業までに英検2級レベル、つまり「社会生活に必要な英語を理解し、使用できるレベル」の英語力習得を目指すという指針が示されました。これまでと比べると到達目標の質的な引き上げです。

現在、日本の英語教育カリキュラムは小学校〜中学校〜高校と一体的に組まれています。高校卒業までの到達目標が引き上げられれば、当然、中学校で学習する内容のレベルも上がることになるのです。



2022年度の中1生は、小学3・4年生で外国語活動として、5・6年生では教科として英語を学んでいます。※

つまり「小学校で十分英語に慣れ親しみ、コミュニケーション活動に加え、段階的な読み書きを行ってきた」という前提で中学校英語がスタートしています。ただし、その習熟度合に関しては、自治体や学校ごとに差異があり、注意が必要です。

また単語数も、小学校で600〜700語、中学校卒業までに累計2200〜2500語程度と、従来の約2倍に増えています。さらに高校卒業までには合計で4000〜5000語も扱うことになっているのです。

※2018年度の小3時、2019年度の小4時は移行措置。

そんなに増えているの知らなかった!

そうなんです。他にも知っておいた方がいいことがありますよ。

**A**

高校卒業までに到達すべき目標が引き上げられたからです。

**Q**

なぜ、教科書改訂で中学校の学習内容が難しくなったの?

**A**

小学校英語が本格的に始まったことも、大きく影響しています。

**Q**

中学校英語の難化の理由は、高校での到達目標の変化だけ?



陽子(48) さくら(高2)と蓮(中2)の母





# 小学校での英語学習との違いに戸惑う中学生が増えています。

中学生にとつてこのギャップは意外に大きく、小学生のとき「英語ができる」と感じていたことがむしろ中学校の英語学習で挫折を感じる原因となつていきます。



一方、中学校英語の学習は「小学校で600〜700語を習得している」という前提が始まります。小学校で段階的に学習することになってきた「読むこと」や「書くこと」も本格的に求められます。その違いにはじめは戸惑うかもしれませんが、小学校で扱っている単語が多いので、優先順位を明確にして学びの相違を理解した上で英語嫌いにさせないことが大切です。

小学校では、英語に慣れ親しむことが、英語学習の大きな目標の一つ。したがって、学習内容も「聞くこと」「話すこと」「やり取り」「話すこと」「発表」が中心でした。しかし、中学校では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を加えた4技能5領域のみならず、文法事項の理解や習得も目標となります。

文部科学省では小学校英語で扱う単語について、発信語彙(実際に話したり書いたりするときに使える語彙)と、受容語彙(読んだり聞いたりするときに理解できる語彙)とを区別し、扱う単語すべてを覚える必要はないとしています。

**A**

そう単純な話ではないんです。

**Q**

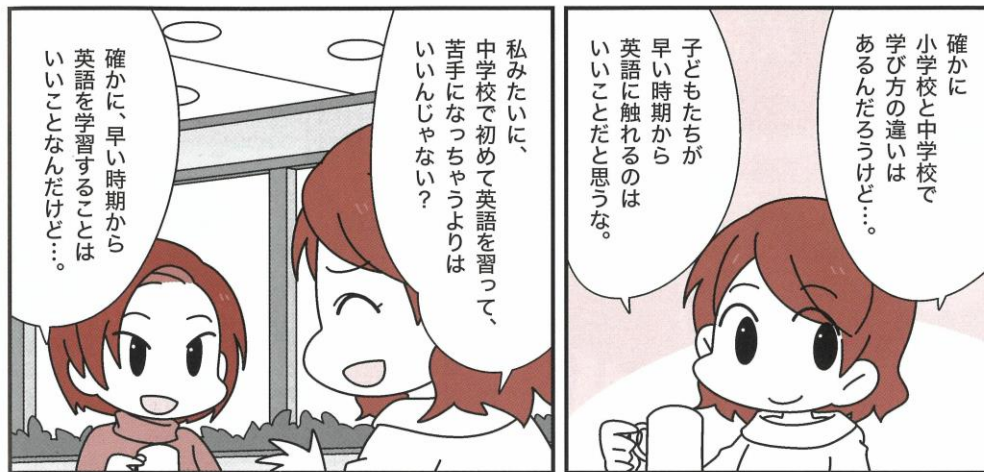
小学校で早くから英語に親しめば、中学校英語を心配しなくてもいいのでは？

**A**

すべて覚えなければいけないわけではありませんが…。

**Q**

小学校英語でも、単語は覚えなくちゃいけないの？



中学校の英語が難しくなったということは、もしかして…。

そう。高校入試にも影響しますよ。